
It doesn't Kiss

夏目

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

It doesn't Kiss

【Nコード】

N6731B

【作者名】

夏目

【あらすじ】

昔、誰かが言っていた。”娼婦がキスをしないのは「カラダは売っても心は売らない」ということの象徴”だと。

「キスをしないのは娼婦気取り？」

いつもの様に呼び出され、

いつもの様に求められるままに軀を重ねた後、

妖しく微笑む女に見上げられる淳一。

「娼婦・・・ですか？」

煙草を啜えながらニヤリと捕らえどころの無い表情で見返す。

「そう・・・。」

フフフと可笑しそうに笑う女。

年上の余裕とも言うべき自信に満ちた笑いだ。

研究所の上司。

名前はなんと言っただろう？

”主任”以外の呼ばれ方をしている記憶がない。

「キスして欲しいんですか？」

片眉を上げ、皮肉な笑みを浮かべる。

「別に。軀だけで十分よ。」

鼻で笑う。

確かに、驚くほどあっさりとした体だけの関係。

それもこの不自然な環境の所為だろう。

孤島に立てられた研究所”noa”。

全てがコンピュータで管理され、外出する事は許されない。

「そりゃヨカッタ。」

クク・・・と煙を吐きながら微かに笑う。

「そう言えば”新しい兎”は元氣？」

サイドボードの煙草に手を伸ばし、啜える。

「ええ。」

「今度貸してもらおうかしら・・・。」

カチッ

火をつけた煙草を大きく吸い込む。

「僕が飽きたらいつでも。」

それを見ながら相変わらずつかみ所の無い表情の淳一。

「フフ・・・心にも無い事を・・・お気に入りなんでしょ？」

フツと紫煙を顔に吹きかける。

「解かります?。」

一向に煙たがる事も無く、微笑む淳一。

「精々逃げないようにする事ね。」

「気を付けマス。」

煙草を灰皿に押し付けると、静かに部屋を後にした。

互いに己の欲望の捌け口としてだけの行為

その間には何の感情も在りはしない

軀は反応し欲望をぶちまけるが

感情は気味が悪いほど冷静でいる

そう、まるで・・・というよりも自慰そのものだ

「クク・・・娼婦以下かもしれないな。」

自嘲気味に笑いながらも足は自然と決まった場所とへ向かう。

コン コン

「はい?」

「コンバンワ。」

「ジュンイチ？」

勢い良く開いた扉から出てきたのは黒い髪に黒い瞳を持つ少女。手を加えられていない黒髪に白い肌が映えている。

主任が言っていた”新しいウサギ”・・・螢である。

現在進めているプロジェクトの大事な実験体。

「こんばんわ、ウサギさん。」

扉に手を掛け微笑む。

先程までとは違う、柔らかい笑顔。

「何、それ？」

クスクス笑いながら、淳一の胸に身を寄せる螢。

「タダイマ。」

それをしっかりと受け止めながら扉を閉める。

今日もジュンイチからアノ人の匂いがする

胸が壊れそうな位痛い

けど

逢いに来てくれた

それだけで十分

なのに多くを望んでしまうのは

きつと今幸せだから・・・

いつもアノ後、自然と足が向かってしまう

逢って笑顔が見たくなる

まるで穢れを知らない無邪気な笑顔

自分の穢れが浄化される気がする

もう子供じゃないから

純粹ではいられない
でも

暗い部分は隠し尽くそう

どんなに悲しくても

ジュンイチの前では子供でありたい

何も知らない子供のまま

だから貴方の前ではいつも笑顔

ねえ？

ちゃんと笑えてる？

その笑顔の下に隠された憎悪にも似た感情
子供ではない女の顔をする一瞬
それをも見たくて逢いに来る

「ジュンイチ？」

無言の淳一を小首を傾げて見上げる螢。

「やっぱり気になる？」

「えっ？」

「泣きそうな顔してる。」

そう言つて優しく頬に触れる。

「……………」

力無く頭を振る螢。

少し赤くなつた頬と潤んだ瞳で必死に否定している。

「螢……娼婦が何でキスしないか知ってる？」

優しく抱き締め、螢の髪を遊びながら耳元で囁く。

「？」

キョトンと見上げる瞳。

それを優しく包むように見詰めた後、
そっと髪に口付ける。

伏せた目と微かに揺れる睫を見ながら

言葉に出来ないこの感情を

何とか君に伝えようと

髪から離れた唇で

君の呼吸を封印する

ゆっくりと味わうように繰り返される甘い口付け。

ジュンイチが何を言いたかったのかは解からない
けれど

この温もりだけはしっかり解かる。

忘れないようにもっとして

もっと もっと

ジュンイチから逃げられない様に。

もっと もっと

もっと もっと

もっと もっと

もっと もっと

いつまでも・・・

昔、誰かが言っていた。

” 娼婦がキスをしないのは「カラダは売っても心は売らない」ということの象徴 ”
だと。

ならば僕は君だけに口付けよう

他の誰でもない螢だけに

ボクノココロヲキミダケニ・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6731b/>

It doesn't Kiss

2010年11月5日07時35分発行